

授業科目名	子ども家庭支援の心理学	教員名	木村 匡登	卒業及び 免許・資格 との関係	卒業	選択
					小学校教諭	選択
科目番号	TA1205	配当年次	3年前期		幼稚園教諭	選択
					保育士	必修
授業形態	講義				こども音楽療育士	
単位数	2単位				情報処理士	
科目						
施行規則に 定める科目区分						
一般目標	子ども家庭支援の心理学の授業では、「乳幼児期の初期経験の重要性から、学童期の精神保健の現状と課題、その後の青年期、成人期、老年期にかけての発達課題を理解する」という縦軸（子どもの育ちの連続性）と、「家族・家庭の意義や機能、多種多様な親子関係・家族関係があること、及び子育て 家庭 の現状 と課題 を理解する」という横軸（子どもの育ちの多様性）を掛け合わせて、子どもとその家庭を包括的に支援していくための 視点を習得することを目的とする。					
到達目標	(1)生涯発達に関する心理学の基礎的な知識を習得し、初期経験の重要性、発達課題等について理解する。 (2)家族・家庭の意義や機能を理解するとともに、親子関係や家族関係等について発達の観点から理解し、子どもとその 家庭 を包括的に捉える視点を習得する。 (3)子育て環境をめぐる現代の社会的状況と課題について理解する。 (4)子どもの精神保健とその課題について理解する。					
ディプロマ・ポリシーとの関係	本講義は、教育学部のディプロマ・ポリシーに掲げる「6. 教科・教職に関する基礎的・応用的知識を身につけている。」を育成する科目として配置している。					
授業の概要	子ども家庭支援の心理学の授業では、まずは心理学的観点から、人の一生涯の発達過程を学ぶ中で、生涯発達の視点を獲得するとともに、初期経験の重要性を理解する。また、社会福祉的観点から、家族・家庭の意義と機能をおさえた上で、現代の子育て家庭を取り巻く現状と課題や、多種多様な家庭を理解し支援していく必要性について学ぶ。また、子どもの精神保健の観点から、子どもの生活・生育環境が子どもの心にもたらす影響についても理解を深める。これらを通して、子どもとその家庭を支援するための包括的な視点を獲得する。 授業形態は講義とする。授業内で出される課題についてのグループディスカッション、心理学実験、プレゼンテーション等のアクティブラーニングを部分的に取り入れる。					
履修条件・注意事項	特になし					
授業計画	<p>第1回：生涯発達の観点から、発達の過程や初期経験の重要性について理解する（ローレンツの刷り込みやハーローの代理母実験からその生物学的な基礎について学ぶとともに、ボウルビイの愛着理論についても理解を深める）。（目標1）</p> <p>第2回：乳幼児期から学童期前期にかけての発達とその課題について理解を深める（愛着形成、罪悪感、劣等感等）。（目標1）</p> <p>第3回：学童期後期から青年期にかけての発達とその課題について理解を深める（自己肯定感、アイデンティティ形成等）。（目標1）</p> <p>第4回：成人期・老年期における発達とその課題について理解を深める（社会性、次世代育成等）（目標1）</p> <p>第5回：家族・家庭の意義と機能を学び、それぞれの特性や違いについて理解を深める。（目標2）</p> <p>第6回：家庭生活を取り巻く社会的状況を踏まえた上で、多様な親子関係・家族関係があることを理解し、それぞれに適した支援のあり方があることを学ぶ。（目標2）</p> <p>第7回：子どもを育てる経験が親に与える影響について、特に親として育っていくプロセスに焦点を当てながら、具体例を基に理解を深める。（目標2）</p> <p>第8回：子育て家庭を取り巻く社会的状況として、現代の家族ならではの人間関係のあり方や地域社会の変容について理解する。（目標3）</p> <p>第9回：子育て家庭を取り巻く社会的状況として、男女共同参画社会とワークライフバランスの重要性について理解する。（目標3）</p>					

	<p>第10 回：多様な家庭があることを踏まえ、どのような家庭支援が行われているのかについて、それらの支援の意義と課題を理解する。（目標3）</p> <p>第11 回：特別な配慮を要する 家庭 に対するの支援のあり方について、その支援のための連携・協働の視点も踏まえ、具体例を基に理解を深める。（目標3）</p> <p>第12 回：既習の生涯発達及び多様な親子関係や家族関係の現状を踏まえ、子どもとその家庭を包括的に捉える視点を習得する。（目標2、3）</p> <p>第13 回：子どもの生活・生育環境が子どもの育ちにどのような影響を与えるかについて、特に虐待問題に焦点を当てながら、児童家庭福祉問題について理解を深める。（目標3、4）</p> <p>第14 回：子どもの生活・生育環境が子どもの育ちにどのような影響を与えるかについて、特に子どもの貧困問題に焦点を当てながら、子ども食堂等の具体的支援のあり方も踏まえて理解を深める。（目標3、4）</p> <p>第15 回：子どもの心の健康に関して、近年注目を集めている「子どものうつ」や、発達障害に起因する二次障害としての心の問題について理解し、子どもの心を育むために必要なケアについても理解を深める。（目標4）</p> <p>期末試験</p>
授業外学習時間の確保について	<p>（事前・事後学習として週4時間以上行うこと。）</p> <p>事前学習：毎回次の予告を行い、次回までの課題を提示する。</p> <p>事後学習：学習内容を自分の言葉で他者に説明できるようになるよう努めることとする。</p> <p>授業の冒頭で、前回の授業内容についての説明を求めることがある。</p>
学生に対する評価	<p>授業外学習の課題として提出するレポート・ワークの内容と学期末試験の結果による総合評価を行う。評価の割合はレポート・ワークが全体の30%、期末試験の成績が全体の70%とする。</p> <p>なお、レポート・ワーク・答案等の提出物へのフィードバックについては、以下の方法等による。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・コメントを記載して返却する。 ・授業またはオフィスアワーに、口頭で行う。
テキスト	<ul style="list-style-type: none"> ・新基本保育シリーズ⑨「子ども家庭支援の心理学」中央法規
参考書・参考資料等	<ul style="list-style-type: none"> ・適宜提示する
担当者からのメッセージ	<p>授業への主体的な参加を期待します</p>
オフィスアワー	
備考	<ul style="list-style-type: none"> ・実務教員は、この欄に自分が経験した実務内容を本授業でどのように活かすかなどを具体的に加筆してください。 例) 担当教員は、中学校・高等学校における教員（理科）としての実務経験を活かし、●●についての演習を担当する。 ・メールアドレスはシラバスに書く必要はありませんが、学生からの質問・連絡などで対応する必要があるため、最初の授業でメール番号やその他の連絡方法を周知してください。